

第五歩

新しい未来へ ICT 活用・遠隔授業のポイント

学校側と生徒側の準備は？ 相談窓口は？ 遠隔授業導入の疑問に答えます

ICT(情報通信技術)を用いて、高等学校に在籍する病気療養中の生徒へ、授業配信が行われるようになってきました。特に GIGA スクール構想やコロナ禍での遠隔授業の推進により、全国のさまざまな現場で取り組みがなされています。学校側が授業配信をする場合、学校側が指定された端末(Chromebook・iPad等)を使用することが一般的ですが、受信する生徒側(病室や自宅)の環境に応じて適した端末を活用することもあります。下記に示した方法のご質問や、授業配信について、病院とのコーディネート等、相談やサポートが必要な場合、次頁にある支援団体へお気軽にご相談ください。機材の貸し出しなども行います。

学校(教室)側

ネットワークは校内の有線・無線 LAN やモバイルルーター、機材はノート PC やタブレット端末を使います。

板書が鮮明に見えるように、WEB カメラや教室の声を拾うマイクを接続することによって授業配信の精度が上がります。



💡 ソフトは「Googlemeet」や「zoom」が推奨ですが、学校指定のアプリがあれば、そちらをご使用ください。移動教室など、端末の移動はクラスメイトにお願いすることが多いです。

病状によって参加できる授業に限りがあるため、全ての授業に出席を目指すより「最低限、単位取得に必要な授業」をピックアップしながら、体調の良い時により多く授業を受けられるようにすると良いです



生徒(病室・自宅)側

ネットワークはモバイルルーターの他、病院や自宅に Wi-Fi 環境があればそれを使います。
※医療機関の Wi-Fi を使用する場合、事前に確認が必要。

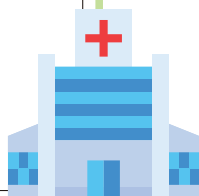
WEBカメラ付きのノート PC にマイクをつないだり、タブレット端末を使用します。板書をしっかり見たいときには画面が大きい端末が GOOD!

可能な限り、授業の内容や進度を学校の先生や友達とやり取りして確認していきます
難しい場合は保護者などをお願いします



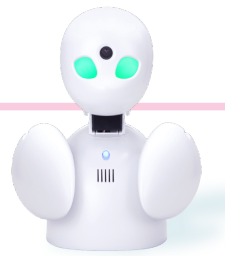
💡 病室の場合には他の患者さんに音漏れしないよう、イヤホンやヘッドホンなどをつけて行うこともあります。生徒が容姿を見られたくないときには画面 OFF 等の配慮もお願いします。(合理的配慮)

学校からの課題やプリントなどをすぐに印刷できるプリンターがあると便利



その他、遠隔授業ツール

テレプレゼンスアバターロボット
(略してテレロボ) のご紹介
出典 (<https://ipresence.jp/>)

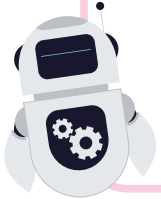


OriHime



kubi

テレビ会議+ロボット+遠隔操作技術を組み合わせた「テレロボ」は医療や教育だけでなく様々な分野で活用されています
kubi や Orihime などのテレロボをタブレット端末とつなぐ事で病室から生徒が画面(カメラ)を自由自在に動かすことができ自分の見たい所を見たり、教室を身近に感じることができます。生徒同士のコミュニケーションも活発に行うことができます。



コロナ禍以前に、長期入院中の高校生が遠隔授業により、単位取得し進級した事例を紹介します。本人・保護者が病院や学校に相談をしながら「このクラスで上がりたい」と訴え、実現しました。治療のスケジュールと授業のバランスを取りながら、一時退院時には感染症対策のため、学校内の別室から遠隔で授業を受けたこともありました。期末試験を外出して受け、進級することができました。現在は大学へ進学し、お世話になった病院の小児科で働くことを夢見て頑張っているようです。



【生徒 A さんからのコメント】

最初は緊張や不安の気持ちが多くありました。
本当に上手くできるのだろうか、授業の迷惑ではないのかと考えていましたが、先生や友達と同じように授業を受けていく中で、「私も一緒に勉強できてるんだ！みんなと進級するために頑張らないと」思うようになりました。
また、その気持ちは治療にも大きく影響し『みんなと一緒に進級したい』と強く考えるようになりました。



【A さんの保護者から】

ある日突然、病気になり不安でいっぱい
の時、高校生活も諦めないといけなかもという問題にぶつかり、親子共々諦めようとしていました。しかし、この制度で不安要素を1つ取り除けて、安心して治療に専念することができたと思います。病気は、いつ、誰がなるかわかりません。病気になってしまった高校生も、退学、休学だけの選択ではないことを知ってもらい、夢を諦めないでもらいたいです。

事例集の中では、他に長期の入院治療のため学校行事へ参加できない経験をした高校生のため関係者が連携を図り病室へ卒業式を中継した事例なども紹介しています。闘病中は病気と治療によるつらさ、さらに未来を諦めてしまいそうになることがあります。そんな中でも、生徒の思いを汲み取った周囲の大人たちが連携することにより、彼らの未来へ希望をつなぐことができます。

本事例は全て『岡山県内の病気療養児支援で多職種が連携した実践事例集～医療・教育・地域が子どもたちの学びを支える～』ベネッセこども基金助成 2023年 認定NPO法人ポケットサポート発行 より抜粋しています
出典：<https://www.pokesapo.com/>

三好祐也



認定 NPO 法人ポケットサポート代表理事
香川県直島町出身。岡山大学大学院保健学研究科で病気の子どもの教育について研究。2015年に現団体を設立し、5歳の頃に発症した難病の治療を続けながら支援活動を行う。

窓口

【全国の病気療養児支援について相談できる窓口】

- ・ NPO 法人勇者の会（北海道）

TEL: 090-2056-5339 Mail: yusyanokai464923@gmail.com

- ・ 認定 NPO 法人ポケットサポート（岡山県）

TEL: 086-289-8528 Mail: info@pokesapo.com

- ・ NPO 法人未来 ISSEY(香川県)

TEL: 0877-35-8115 Mail: miraissey@gmail.com

- ・ 認定 NPO 法人ラ・ファミリエ（愛媛県）

TEL: 089-916-6035 Mail: lafamille@cc-sodan.jp

- ・ 全国病弱教育研究会（全国）

Mail: zenbyouken@gmail.com

【全国の長期入院・病気療養児支援で、遠隔授業について相談できる窓口】

- ・ オンライン院内学級 KAYOU プロジェクト（京都）

TEL: 075-253-5555 Mail: info@kayou-project.jp

【全国の病気療養児への ICT 活用支援で学校、関連機関の相談できる窓口】

- ・ 一般財団法人ニューメディア開発協会（東京）

Mail: NMDA-SJG@nmda.or.jp



こちらは 2024 年 1 月の情報です。
相談窓口は随時更新されており、以下の HP でご案内します。
<https://miraissey.com/guidebook>